

「キリスト教信仰とは何か」—キリスト教教理の基本—

2022年1月30日第五主日 15:15-16:15

第2回 聖書について (B)

1. 正典と外典

(1) 正典 (カノン)

この書の預言の言葉を聞くすべての人々に対して、わたしは警告する。もしこれに書き加える者があれば、神はその人に、この書に書かれている災害を加えられる。また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、とり除かれる。

ヨハネの黙示録22:19-20

旧約聖書39巻+新約聖書27巻=全66巻をさす。

聖書全66巻は、神の靈感によって書かれた、誤りなき神の言葉である。

¹⁵ また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている。

¹⁶ 聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しく、義に導くのに有益である。

¹⁷ それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである。 第二テモテ3:15-17

「カノン」とは元来、物差しを意味する。正典としての聖書とは、第二テモテ3:15-17にあるように、どのようにして人は救われるのか。また信じた者がどのように生活するべきかを指し示す規範である。

(2) 正典結集の決定

①旧約聖書 BC250年 70人ギリシャ語訳聖書 (LXX:セプチュアジント)の成立

②新約聖書 AD397年 第2回カルタゴ会議

歴史的には、サンヘドリン、教会会議で決定されたが、「主よ、あなたのみ言葉は天に

においてとこしえに堅く定まり」(詩篇 119:89)とあるように、天上において、正典の結集は既に決められていたものが、地上において、聖霊の導きにより追決定されたのである。

(3) 外典 偽典 正典以外のものをさす

①外典(アポクリファ)

正典に準ずる、信仰的に建徳的な書物として教会が推奨したもの。

旧約外典には、第一・第二マカベア書、第一エラドラス書のような歴史書、トビト書、ユデト書のような伝説的物語、ベン・シラの書、ソロモンの知恵のような教訓的な知恵文学などがあり、カトリック教会は、旧約の外典を聖書に付加している。日本聖書協会共同訳では、旧約続編付がそれに当たる。新約においては、正典以外はすべて外典としている。新約外典には、ペテロによる福音書、使徒の名による使徒行伝、クレメンスの手紙、ペテロやパウロ、ステパノの黙示録などがある。

②偽典(プシュデフィグラファ)

聖書中の重要人物の名を借用して権威つけた書で、建徳的な価値を持たないもの。ソロモンの詩篇、エノク書、ヨベル書など。

2. 人間の創造

主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。
そこで人は生きた者となった。 創世記2:7

(1) 神の像(かたち)

神ご自身の命の息が吹き入れられることによって、単に命が与えられたということのみならず、神の像(かたち)に造られた(創世記1:26-27)。

神の像に造られたとは、神の持つておられるご性質が付与されたということである。

- ①神の創造→人間の創造力 独自性
- ②神の自存→人間の主体性
- ③神の愛→人間の愛情、あわれみいつくしむ心
- ④神の義→人間の正義感
- ⑤神の全知→人間の知性、理性
- ⑥三位一体の神→人間相互の交わり

(2) 霊性の養いの必要性

この神の像が人間の本来の人間性。

それを養うためには、神の命の息(霊)を恒常的に受ける必要がある。

聖書を読み、神の語りかけを聴くことによって神の命の息(霊)を受けすることができる。

3. 神のいのちの言葉としての聖書

人はパンだけで生きるものではなく、
神の口から出る一つ一つの言で生きるものである。 マタイ4:4

申命記8:3の引用。聖書を書いた原著者に聖霊が働かれ、神が語られたよう(靈感)に、聖書を読む現代の私たちにも聖霊が働かれ、神が語られる(照明)。その語りかけを聴く時に、神の息吹が私たちに吹き入れられる。語られるみ言葉に心から従いたいという意欲と、従い通すことのできる力が与えられる。

三位一体の神は、交わりの神である。神ご自身の交わりと人との交わりを望んでおられる。神との交わりが深められ、神の心がわかる、神の心に触れるような(第一コリント2:16)、「神の友」と呼ばれる信仰者を、神は求めておられる。

4. 聖書の構成

旧約聖書 39 卷

【律法】 創世記 出エジプト記
レビ記 民数記 申命記

【歴史書】 ヨシュア記 士師記 ルツ記
サムエル記上下 列王記上下 歴代誌上下
エズラ記 ネヘミヤ記 エステル記

【知慧文学】 ヨブ記 詩篇 箴言 伝道の書 雅歌

【大預言書】 イザヤ書 エレミヤ書 哀歌
エゼキエル書 ダニエル書

【小預言書】 ホセア書 ヨエル書 アモス書
オバデヤ書 ヨナ書 ミカ書 ナホム書 ハバクク書
ゼパニヤ書 ハガイ書 ゼカリヤ書 マラキ書

新約聖書 27 卷

【福音書】 マタイによる福音書 マルコによる福音書
ルカによる福音書 ヨハネによる福音書

【歴史書】 使徒行伝

【パウロ書簡】 ローマ人への手紙
コリント人への手紙第一・第二 ガラテヤ人への手紙
テサロニケへの手紙第一・第二

【獄中書簡】 エペソ人への手紙 ピリピ人への手紙
コロサイ人への手紙 プレモンへの手紙

【牧会書簡】 テモテへの手紙第一・第二
テトスへの手紙

【共同書簡】 (へブル人への手紙) ヤコブの手紙
ペテロの手紙第一・第二
ヨハネの手紙第一・第二・第三 ユダの手紙

【黙示録】 ヨハネの黙示録

追加

5. 正典としての聖書

- ¹⁶ 聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しく、義に導くのに有益である。
- ¹⁷ それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである。 第二テモテ3:16-17

聖書は愛の書である。神から自分に宛てられた「愛の手紙」として読むことが肝心であり、基本である。聖書を読む時、主があなたをどんなに愛しておられるかをくみ取るのである。神の御前に入る時はありのままの姿で、何ら飾り立てする必要はない。神はわれわれのありのままを受け入れてくださる。

また、救いは、ただ神の愛と恵みによって与えられるギフトである。無償で与えられるものである。

神の愛によって人は育まれる。救いは神の恵みによって与えられるものだということを徹底的に知って、人は新しく生まれ変わる。

- ⁵ また子たちに対するように、あなたがたに語られたこの勧めの言葉を忘れていない、「わたしの子よ、主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。
- ⁶ 主は愛する者を訓練し、受け入れるすべての子を、むち打たれるのである」。
- ⁷ あなたがたは訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを、子として取り扱っておられるのである。いったい、父に訓練されない子があるだろうか。
- ⁸ だれでも受ける訓練が、あなたがたに与えられないとすれば、それこそ、あなたがたは私生子であって、ほんとうの子ではない。
- ⁹ その上、肉親の父はわたしたちを訓練するのに、なお彼をうやまうとすれば、なおさら、わたしたちは、たましいの父に服従して、真に生きるべきではないか。
- ¹⁰ 肉親の父は、しばらくの間、自分の考えに従って訓練を与えるが、たましいの父は、わたしたちの益のため、そのきよさにあずからせるために、そうされるのである。
- ¹¹ すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。

われわれが本当の子どもであればこそ、神は試練を与え訓練される。教え、戒め、矯正し、あるべき道に導かれる。